

科目名	グローバル人材PBL						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	法学部	配当年次	3年次	単位数	2単位
教員名	中谷 真憲						

授業概要／Course outline

PBL (Project Based Learning) とは「課題解決型学習」の意味です。学生自身の「主体的で実践的な学び」に重点をおいたアクティブラーニング（能動的学習）の一種となります。先進的な地域職能資格GPMの中核科目にもなります。

本授業は、京都経済同友会、京都商工会議所、京都経営者協会、京都工業会の京都経済四団体の協力のもと展開されるもので、社会の求める人材（グローバル人材）育成の先進的な取り組みとして経済界の注目を集めています。学生はこの授業を通じて、企業や地域社会の実際を知り「仕事」について理解を深めるとともに、チームワークやリーダーシップ、スケジュールマネジメント能力、プレゼンテーションの能力を身につけることが出来ます。

本授業においては「NPO法人グローバル人材開発センター（略称：グローバルセンター）」が、経済界や外部団体との連携をコーディネートし、学生の主体的な取り組みを支援します。

なお、受講生は初回授業時に意欲を確認されます。

＜具体的中身＞

PBLは、教員、学生と協力していただく企業、団体などの間で話し合いつつ作り上げていくものです。

学生は教室にとどまるのではなく、企業人などと話し合いながら、提示された「課題」の解決にチームを組んで取り組んでいくこととなります。グローバルセンターでは、企業との間で日常的な検討会議を設け、産学連携の本格的なプロジェクトを蓄積していますので、そのプロジェクトのどれかに選んで取り組んでもらうことになります。また、企業訪問においては他大学の学生と一緒にすることがあります。

これまで、河原町OPAリニューアルプラン作成、大型書店の改装プロジェクト、カカオ豆の新商品プロジェクト、地元金融機関と連携しての若者起業スキームの立案、GUの新規CSR開発、阪急高架下開発提案、リサイクル事業の提案などを行ってきました。またサステナブルな社会やダイバーシティある企業をどう創り出すかという大テーマの下で、複数企業・団体と連携して深掘りした企画案を考えるような、学生側の自由度がより高い取組も行っています。

* 本授業は、単なる「体験学習」ではありません。受講生は「課題」を深く考察し、政策学などをベースに専門的アプローチを行い、資料の分析等を組み合わせて「報告」を仕上げていくことになります。実践の中で勉学を深める、勉学の中で実践力を身につける、そうした取り組みとなります。理論を実践に結びつける、実践から理論を考える、そうした機会にもなるでしょう。

＜成果報告会＞

基本的には、企業との顔合わせ、中間報告、最終報告と最低限三回の企業との打ち合わせ、報告の機会があり、また、成果報告会（グローバル人材フォーラム）でさらにひろく企業人、地域社会の市民、行政担当官の前でプレゼンをすることになります。PBLを通じての企業人・社会人との接触、そしてこの成果報告会などにより、受講生は自らを社会的にアピールすることができます。皆さんの中には、エントリーシートから始まる、形式的な就活の形にうんざりしている、あるいは空しさを覚えている人もいるでしょう。むろん、それらは一概に否定すべきものでもありませんが、もっと学生の思いと企業側の思いをぶつけ合う場があってもいいはず。プロジェクトを通じて、自分の力を伸ばし、確認し、企業に見てもらえる場があってもいいはず。この授業はそうした場を提供します。

本気で15回の授業を全うする気持ちのある人、自ら動く人が受講してください。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：PBL）

企業連携プロジェクトを行う。

講師との各接点が対面かオンライン化は先方の事情に合わせます。

基本的に対面授業ですが、講師の意向と学生との話し合いに基づき、回によってはオンライン実施の可能性があります。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

オンデマンド授業は、moodleで行う。内容に関する質問はメールで受け付ける。

・実務経験のある教員による授業

経済界と連携したNPO法人を創業、経営しており、企業のアドバイザーも務めています。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 ガイダンス

授業のスケジュールを確認し、PBLについての説明を受ける。身につく力、取り組むプロジェクトテーマについてガイダンスを行う。

第2回 課題の選択、チームの編成

各自の関心も考慮しつつ、教員の指示によりチーム編成を行う。チーム内でテーマの深掘の仕方を検討する。役割分担を決めていく

第3回 企業等訪問、担当者との打ち合わせ

企業訪問、あるいは企業に来ていただく、どちらもありうるが、企業に対してテーマに関する質疑を行う。各自の役割へと落とし込む。

第4回から6回 計画策定・資料分析・調査

プロジェクトテーマをブレイクダウンしつつ、まず必要な検討事項を洗い出し、予備調査・分析（文献、フィールド）、そのとりまとめにもとづく中間報告資料作成を進める

第7回 中間報告、質疑応答、計画等修正

授業内で中間報告を行い、他チームからのフィードバックを受ける

第8回 企業等訪問、担当者との打ち合わせ

企業で中間報告を行い、フィードバックを受ける

第9回から13回

中間報告のフィードバックを受けて、さらなる資料分析・調査のやり直し・最終報告の準備

第14回

授業内で教員および他チームに対して最終報告を行う。フィードバックを受ける。

*その後、企業現地での最終報告、および社会的に開かれた場において「(グローバル人材フォーラム(成果報告会))」を開催します。

★オンデマンド授業に代え班毎の進捗に応じて企業人とのオンラインワークショップを設定する回を設けます。(90分、1回、収録はムードル発信;7回目前後を予定)

事前・事後学修／Preparation and assignments

全体で3～5回程度、ふりかえりシート(ルーブリック)の提出を求めます。

第1回 ガイダンス

事前学習 この授業に対する意欲を説明できるようにしておくこと

事後学習 自分の身につけるべき能力についての内省

第2回 課題の選択、チームの編成

事前学習 課題テーマについて何ができるか考えておく

事後学習 チームの内のコミュニケーションの円滑化に努める

第3回 企業等訪問、担当者との打ち合わせ

事前学習 企業の方への質疑事項、またテーマと社会課題との接点について考えておく

事後学習 質疑をもとに、役割分担の再定義

第4回から6回 計画策定・資料分析・調査

事前学習 進捗と役割に応じて資料作成、必要なアンケート、調査などを進める

事後学習 かならず次回までにやるべきことを共有

第7回

事前学習 中間報告作成

事後学習 フィードバックの整理、役割への反映

第8回

事前学習 中間報告作成

事後学習 企業の方からのフィードバックの整理、役割への反映

第9回から13回

事前学習 最終報告(大学内)に向けた練り直し

事後学習 進捗に応じてブラッシュアップ

第14回

事前学習 最終報告作成

事後学習 全体ふりかえり

★オンラインワークショップの回

事前学習 質疑の準備

事後学習 フィードバックのとりまとめ、資料のブラッシュアップ

※事前学習は各授業2時間、事後学習も各授業2時間必要である。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

地域経済と、グローバル化の関わりを実例に則して理解すること。
そして働くことの中に埋め込まれた公共性とは何か、という点を理解すること。
チーム運営、自己管理の能力を身につけること

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-------|----------------------|
| ・ 発信力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 倫理性 | 【法学部 法律学科】 |
| ・ 創造性 | ・ 法律学・政治学の知識の応用力 |
| | 【法学部 法政策学科】 |
| | ・ 法律学・政治学・政策学の知識の応用力 |

履修上の注意／Special notes, cautions

GPMについては、法学部HPおよび発行主体のNPO法人、
グローバル人材開発センター
http://glocalcenter.jp/about_gpm.html
を確認してください。
GPMとして取り組むことが推奨されますが、この授業を単独授業しても問題ありません。
当たり前ですが、休まないこと。
また、学習以前に、マナーが出来ていること
多忙な中、時間をさいて協力頂く企業人に失礼のないように心がけること。
ただし、臆せずに発言すること。グループで討議するので他人の意見を尊重すること。

評価方法／Evaluation

授業中の取り組み50%、および、最終報告50%によって評価する。
授業中の取り組み評価では以下の事項を参考にする。
教員による評価、学生同士（他チーム）による評価、クライアントの評価、および取り組み（取り組みの熱心さ、フィールドワーク、クライアント訪問など）での姿勢。

連絡先はムードル記載のメールアドレス

なお、特別な理由なく3分の2以上の出席がない場合は「／（出席日数不足）」とし単位は与えません。

教 材／Text and materials

なし。プロジェクト内容に応じて文献読み込みを指定することがある。

質問や相談の方法／Instructor contact

ムードルに記載する教員のメールアドレス

その他／Others

この科目は資格「グローバルプロジェクトマネジャー（GPM）」の構成科目の一つである。60点以上の評点が認められると、資格認定のためのポイントが付与される。詳しくは本学WEBサイトの法学部ページ、グローバル人材開発センターにある「GPMグローバル人材資格制度」を参照すること。